



# 感染症トピックス

## 手足口病について



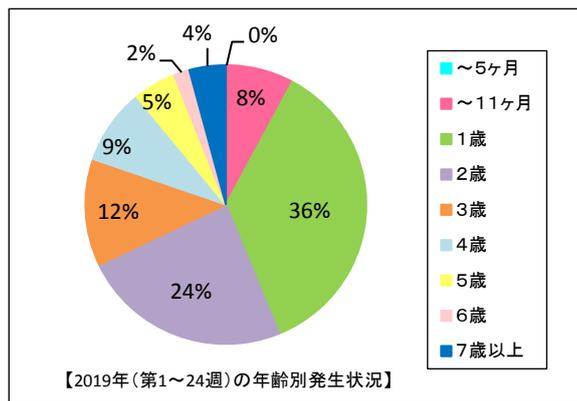
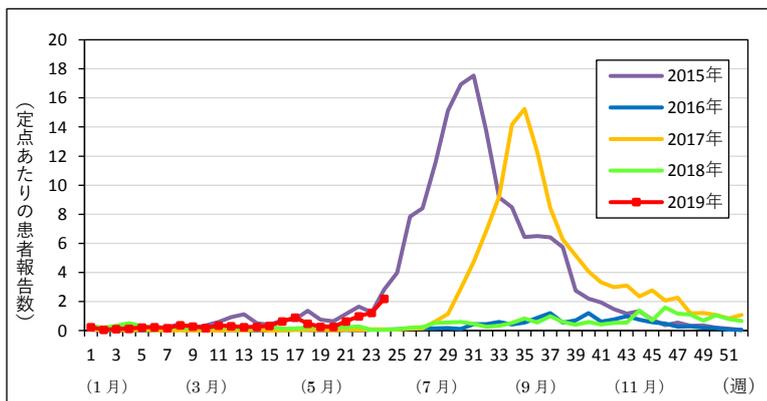
### ■ 手足口病とは？

手足口病は、口腔粘膜、手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症です。幼児を中心に夏季に流行がみられ、発疹だけでなく発熱を伴うこともあります。

コクサッキーウイルスA6、A16やエンテロウイルス71などのエンテロウイルス属が主な原因ウイルスです。まれに、髄膜炎や脳炎などの合併症を引き起こすこともあり、特にエンテロウイルス71は、中枢神経系の合併症の発症率が他のウイルスより高いことが知られています。また、コクサッキーウイルスA6が原因の場合、発症数週間後に爪甲が脱落する症例が近年報告されています。

主に、患者の咳やくしゃみによる飛沫感染、手指や共用タオル等を介した接触感染により感染します。

### ■ 福島県内の手足口病発生状況



2019年第24週(6月10日～6月16日)現在、福島県内の1定点あたりの患者報告数は2.2人となりました。例年、夏季に流行のピークを迎え、今後もさらに増加する可能性があります。また、第24週までの年齢別割合では、1歳以下が全体の約4割を占めています。

### ■ 予防対策について

- (1) 排便後や食事の前には、石鹸や流水で手を洗いましょう。  
なお、症状が消失した後も2～4週間にわたり便中にウイルスが排泄され、感染源となる恐れがあるため、注意が必要です。
- (2) 咳エチケットを心掛けましょう。
- (3) タオルの共用は避けましょう。



※ 関連・参照情報ホームページ

[厚生労働省へのリンク](#)

[国立感染症研究所へのリンク](#)